

第4回資源評価グループ会合
ニュージーランド、クライストチャーチ
2003年8月25 - 29日

議題草案

1. 開会
 - 1.1 参加者の紹介
 - 1.2 会議運営上の事項
2. ラポルツァーの任命
3. 議題の採択
4. 会議文書の承認及び文書リストの最終化
5. 漁業指標分析結果のレビュー
 - 5.1 漁業指標のレビュー
 - 5.2 ミナミマグロ資源の状況
6. 管理手続
 - 6.1 付託事項
 - 現在まで試験を行った管理手続（MP）候補のパフォーマンスの評価
 - MPの最終評価に使用されるオペレーティングモデル及び頑強性試験の最終仕様を作成する
 - MP候補からオペレーティングモデルにおけるパフォーマンスを評価するためのプロセスを特定する
 - 作業計画及び予定表の明確化
 - 6.2 業界及び行政官との協議
 - 6.3 試験段階から現在にいたる最初のMP候補のパフォーマンス
 - 6.4 管理手続の試験実施及び結果をオペレーティングモデルに総合させるためのプロセス
 - 6.4.1 結果をシナリオに総合させるためのプロセス
 - 6.4.2 重み付けを他のシナリオに割り振るためのプロセス
 - 状態変数及びモデル・パラメーターのおおよその事後分析におけるMCMCの可能性〔M及びhに関し異なった事前分布を使用したビビアン・ハイストによって行われたMCMC試験の結果を討議する〕
 - 専門家の判断
 - 6.4.3 その他
 - 6.5 オペレーティングモデルの再検討
 - 6.5.1 2003年4月以降に配布された一般化したコンディショニングコード（sbtmod4.tpl）を使用して加盟国科学者によって実施されたモデル適合結果のレビュー
 - 6.5.2 異なったモデルについて実施された特定の仮説の再検討
 - 6.5.3 最終オペレーティングモデル及び頑強性試験の選択

6.6 パフォーマンス統計及び頑強性の基準の再検討

6.7 試験の実施及び結果の評価の機構

6.7.1 シミュレーションコードに関する使用者の経験から挙げられたコードに関する問題

6.7.2 加盟国科学者によって得られた結果をデータベースにまとめる

6.7.3 結果の比較を促進するための手順を明確化する（表、グラフ等）

6.7.4 その他の問題

6.8 作業計画及び予定表

- 導入及び配布されたコンディショニング及びシミュレーションコードのさらなる変更
- コンサルタントが歴史的データを条件付けすることによってモデルパラメータを推測する
- コンサルタントが最終的なシミュレーション及びデータ/パラメータセットを加盟国科学者に配布する
- 加盟国科学者が MP 候補のパフォーマンスを評価する
- コンサルタントが最終試験の間にオペレーティングモデル及び MP をテストするのに使用されたプロセスに関する文書を総合する
- 加盟国科学者が MP の試験を行い、結果を文書にまとめる
- 結果を交換し、それらをデータベースにまとめる
- 第3回ワークショップを開催する

6.9 ミナミマグロの管理目的

7. 2004 年に使用されるべき評価アプローチ

8. インドネシア漁獲モニタリング

9. その他の項目

10. 会議報告書の採択

11. 閉会

第4回資源評価グループ会合
ニュージーランド、クライストチャーチ
2003年8月25 - 29日

議題草案

1. 開会
 - 1.1 参加者の紹介
 - 1.2 会議運営上の事項
2. ラポルツァーの任命
3. 議題の採択
4. 会議文書の承認及び文書リストの最終化
5. 漁業指標分析結果のレビュー
 - 5.1 漁業指標のレビュー

(加盟国及びパネルによって行われたミナミマグロ漁業指標の最近のレビューについて協議する。)
 - 5.2 ミナミマグロ資源の状況

(上記の漁業指標分析によるミナミマグロ資源の状況に関してどのような結果が引き出されるか?)
6. 管理手続
 - 6.1 付託事項
 - 現在まで試験を行った管理手続 (MP) 候補のパフォーマンスの評価
 - MP の最終評価に使用されるオペレーティングモデル及び頑強性試験の最終仕様を作成する
 - MP 候補からオペレーティングモデルにおけるパフォーマンスを評価するためのプロセスを特定する
 - 作業計画及び予定表の明確化
 - 6.2 業界及び行政官との協議

(レイ・ヒルボーン博士が業界及び行政官との会合の結果をレビューする。)
 - 6.3 試験段階から現在にいたる最初の MP 候補のパフォーマンス

(2003年4月以降に行われた MP 試験の結果をまとめた加盟国科学者からの文書が提出される予定。)
 - 6.4 管理手続の試験実施及び結果をオペレーティングモデルに総合させるためのプロセス

- 6.4.1 結果をシナリオに総合させるためのプロセス
- 6.4.2 重み付けを他のシナリオに割り振るためのプロセス
 - 状態変数及びモデル・パラメーターのおおよその事後分析における MCMC の可能性〔M 及び h に関し異なった事前分布を使用したビビアン・ハイストによって行われた MCMC 試験の結果を討議する〕
 - 専門家の判断
- 6.4.3 その他

6.5 オペレーティングモデルの再検討

- 6.5.1 2003 年 4 月以降に配布された一般化したコンディショニングコード (sbtmod 4 .tpl) を使用して加盟国科学者によって実施されたモデル適合結果のレビュー

(この項目に関するさらなる作業が 2003 年 4 月以降に行われた場合には、関連文書が提出されなければならない。)

- 6.5.2 異なったモデルについて実施された特定の仮説の再検討

(第 2 回 MP ワークショップの別添 E が、最後の試験セットに関する仮定を文書化している。これらの仮定は協議され、漁獲におけるエラーの対処に関する特定の仮説が作成される。)

- 6.5.3 最終オペレーティングモデル及び頑強性試験の選択

6.6 パフォーマンス統計及び頑強性の基準の再検討

6.7 試験の実施及び結果の評価の機構

- 6.7.1 シミュレーションコードに関する使用者の経験から挙げられたコードに関する問題
- 6.7.2 加盟国科学者によって得られた結果をデータベースにまとめる
- 6.7.3 結果の比較を促進するための手順を明確化する(表、グラフ等)
- 6.7.4 その他の問題

6.8 作業計画及び予定表

- 導入及び配布されたコンディショニング及びシミュレーションコードのさらなる変更
- コンサルタントが歴史的データを条件付けすることによってモデルパラメーターを推測する
- コンサルタントが最終的なシミュレーション及びデータ/パラメーターセットを加盟国科学者に配布する
- 加盟国科学者が MP 候補のパフォーマンスを評価する
- コンサルタントが最終試験の間にオペレーティングモデル及び MP をテストするのに使用されたプロセスに関する文書を総合する
- 加盟国科学者が MP の試験を行い、結果を文書にまとめる
- 結果を交換し、それらをデータベースにまとめる
- 第 3 回ワークショップを開催する

6.9 ミナミマグロの管理目的

(最終的なミナミマグロ管理手続は、委員会で合意された管理目的を達成するためにデザインされる必要がある。現在までに実行されてきた管理手続評価から得られたミナミマグロ資源の状態及び動態に関する最も最近の理解を持って、どのような目的が実行可能及び/あるいは望ましいかということを検討する必要がある。)

7. 2004年に使用されるべき評価アプローチ

(2004年に完全な資源評価を行うべきか検討する必要がある。そしてもし必要であれば、どのような評価方法を取り、どのようなモデル仕様が使用されるべきか、また、どのようなデータが求められるかを検討する必要がある。あるいは、管理手続で確認された現在抱えている課題/問題を解決するためのさらなる努力を注ぐことを可能にするため、完全な資源評価を再度延期することも可能である。)

8. インドネシア漁獲モニタリング

(資源評価グループは、インドネシア漁獲モニタリングワークショップの結論、あるいはインドネシア漁獲データのその後の分析の結果が、管理手続あるいは次の資源評価のどちらかで何らかの形で原因を説明する必要がある多大な影響を持っているかどうかということを検討する必要がある。)

9. その他の項目

10. 会議報告書の採択

11. 閉会